

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 豊橋市立賀茂小学校 (※正式名称を記載)
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}
☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒441-1101

豊橋市賀茂町字森信24番地

E-mail kamo-e@toyohashi.ed.jp

Website <http://www1.kamo-e.toyohashi.ed.jp>

児童生徒数 男子 23 名 女子 40 名 合計 63 名

児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要

(※チェック事項1-1、2-1に対応)

本校は、「ずっとつなごう ぼくらの町・賀茂～ 地域に誇りと愛着をもつ賀茂っ子の育成」を活動テーマとして、地域をみつめ・地域の暮らしを知り、地域に学び、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育をすすめている。地域と連携した学習を系統的に行うとともに持続可能な発展のための教育（ESD）を推進することを通して、郷土を愛する健やかな子どもの育成を目指している。

本校は、ESDで育みたい力を「環境保全」と「地域の暮らしと歴史」の観点から、地域とのつながりを深めて、持続可能な社会の担い手を育てていきたい。自分たちの地域の環境や暮らしと歴史を調べることで、地域に誇りもち、持続可能な将来が実現できるような価値観と行動力を培っていききたいと考えている。

① 地域教育ボランティアと取り組む農業体験

豊橋市の北西部に位置する本校区は、田畑が広がり自然豊かなところである。そこで、地域教育ボランティア「親ガモの会」の方に学びながら、野菜づくりや米づくりに取り組んでいる。

1～4年生は、夏野菜や冬野菜について学習した。よい苗の選び方や日々の世話の仕方について、「親ガモさん」に質問したり、作業を手伝っていただいたりしながら、栽培を行うことができた。5年生は、米づくりを追求した。モミ選びや田植えの仕方、稲刈りや脱穀までの稲作体験を通して、日本の食について学び、自分の食生活を考えなおしたり、実践できたりした。

2月には、2、3、4年生が作ったダイコンやアズキ、ダイズで大根おろしやきな粉、あんこを作り、5年生の育てたもち米で餅をつき、全校で地域の方々に感謝する「ひとのわ集会」をひらいた。これらの活動は、人とのかかわりやつながりを感じることができる重要な体験の場である。

② 校区を流れる豊川と、その支流の間川の環境調査と保全活動

4年生では、校区を流れる豊川・間川の自然環境と豊川の下流や上流の環境を比較・調査しながら、環境保全の大切さに気づき、地域の環境美化と保全意識を高める活動に取り組んでいる。7月には、豊川中流で水生生物調査を行ったり、透度計で計測したりした。また、8月には、三河地区の水がめである宇連ダムや大島ダムにも出向き、水についての学習を深めることができた。水はきれいであればよいというのではなく、干潟の学習を通して「川の健康度」についても追及することができた。

③ 地域の伝統文化や歴史にふれる活動

賀茂は、賀茂神社を祭ることとなった1300年ほど昔より「賀茂」と呼ばれ、豊川に抱かれた校区である。賀茂の自然や歴史について関心を高めるために、「ウォークイン賀茂」を実施している。縦割り班で、校区を巡りながら、自分たちの住む地域に興味をもつことができた。6年生では、「賀茂の町、歴史探求」題して、問題解決学習を行っている。地域のお年寄りや有識者との交流を通して、地域のくらし、伝統、歴史を学び、それを誇りとして伝承し、地域の一員として自覚もつことができた。また、賀茂神社の葵祭で行われる「競馬（くらべうま）」で走る馬にのる体験も全校で行っている。この乗馬体験を通して郷土への愛着や関心を高めている。

④ ホタルの飼育活動

ホタルの飼育活動を6年生が中心に行っている。成虫に卵を産ませ、孵化させ、放流できる大きさにまで育てるのに8か月かかる。環境保全のシンボルとなるゲンジボタルの飼育活動を通して、地域の環境への関心と保全の意識を高め、地域に誇りと愛着心を育んでいる。



①どろんこ体験(田植え前)



②水生生物調査(豊川中流)



①ウォークイン賀茂



④ホタル放流準備

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

賀茂文化第四百号記念 ふるさと賀茂 平成25年 賀茂校区文化祭協会
賀茂文化第三百号記念 昭和時代の賀茂町 平成16年 賀茂校区文化祭協会
だれでもできるホタル復活大作戦 2004 合同出版
親子で楽しむホタルの飼い方と観察 平成15年 ハート出版
ホタル百科 平成17 東京ゲンジボタル研究所
ホタルの光る川 2005 佼成出版

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、総合的な学習の時間において、「大好き 賀茂の町、大好き 賀茂の人」をテーマに「環境」「食農」「キャリア」「歴史・伝統文化」の分野に関する学習活動を、児童の発達段階に応じて展開している。

指導の課題意識をつなげ新たな課題を生み出す支援や児童の子に応じた支援を重視し、試行錯誤できる体験活動の工夫を行っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

運営委員会における校内連絡調整と支援体制の確立を行っている。また、教頭を窓口として地域教育支援ボランティア団体（親ガモの会、葵会等）との連絡調整体制の確立を行い、学習時のサポートを随時行っていたらけるようにしている。

学校内では、低、中、高の学年団での情報交換を適宜行い、継続的な活動に取り組めるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校評価委員会において教育活動全般についてのご意見ご指導をいただいた。

学校が地域と関わりながら心豊かな子どもを育てている。十分な成果を上げているが、今後「地域との関わりから何を学ばせるのか」を検討する機会が必要である。地域のよさだけを扱うのではなく、地域の問題にも気づかせ、解決策を考えるなど客観的・問題解決的なとらえも必要であるとの回答を得た。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

・児童の活動の様子をホームページにアップする
・校長室だよりの発行
・みずのわ集会（活動のまとめを発表し合う活動）の開催
PTA総会で、本校のESDの取り組みについて児童が発表した。保護者に取り組みの様子を知らせるよい機会となった。環境保全活動に取り組んだ4年生は、地域にも呼び掛けたいという思いをもち、回覧版を作って自治会に呼びかけるなど自ら動き出すことができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
(200字程度)
※チェック事項 2-3 に対応

特にありません。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)
※チェック事項 2-4 に対応

特にありません。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

生活科や総合的な学習の時間のカリキュラムを、ESDの視点で見返すことできた。本校の教育活動が地域の方々に支えられていることを再認識し、保護者や地域の方と連携して活動を進めることができた。おかげで、保護者の方も積極的に農園活動に手助けをしてくださるようになった。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

年度末に、本年度取り組んできた総合的な学習の時間や生活科のカリキュラムや行事等を見直し、計画を立てている。

「地域教育ボランティアと取り組む農業体験」「校区を流れる豊川とその支流の間川の環境調査と保全活動」「地域の伝統文化や歴史に触れる活動」「ホタルの飼育活動」の4つの柱は、大きく変更することはない予定である。ただし、次の2点について変更を計画している

- ・ 本年度、6年生が取り組んできた「ホタル飼育活動」は、4年生の環境調査や保全活動にリンクする部分がある。そこで4年生と6年生の、共同実施とする。
- ・ 各学年の取り組みをポスターセッション形式で発表し合った全校体制でのみずのわ集会は、学年差がありすぎて発表内容が難しすぎるなどの課題がみえた。そのため、近隣の学年間での発表を行う「みずのわ期間」を設けることとする。